

所 感

生産技術研究所長 瀬 藤 象 二

このたび天皇陛下の御製を賜わつて、本號の巻首に掲げることができたことに對して讀者諸君とともに、謹んで御禮申上げるとともに聊か所感を述べたい。

「生産研究」は昨年 10 月に創刊されたばかりの若い月刊雑誌であつて、その基礎はまだ十分に固まつていないのであるが、その編集を擔當する當研究所の教官諸君は、非常な熱意と努力とを傾注して事に當つている。而して本誌は生産に關する技術的諸問題について、不斷の研究や實驗の行われた結果を廣く社會に發表することによつて、その使命を果しつつあるのである。これらの事を御聞及びになつて、先例の少い御製の御下賜となつたのであると拜察する。

私には短歌のことはよく判らないながら、この御製二首を通じて、陛下が平素から抱いてられる科學技術に對する深い御關心と、學術研究にいそしむ者に對する厚い御同情とが窺われるのである。國務多端の中から特別に學術の獎勵に御心を懸けられ、この御製を賜わつたことは洵に感謝すべきことと思ふ。

凡そ事を進めるには、精神的と物質的との兩面に亘り適切な處置を講ずる必要があるが、本來精神的勞作の所産である學術の獎勵には、わけても精神的方面が重視さるべきことは當然である。特に世情騷然として、歸趨すべき方向すら見失われるかに見える我が國の現情を思ふ時、志を同じくする者が互に相勵まし合つて、國家再建の道を生産技術の興隆によつて切り開こうとするには、固い決心と萬難を排して進む意力と工夫とを必要とするのである。

政治の貧困を責め、研究費の窮乏を訴え、科學技術の重視せられざるを歎くことにのみ急いで、自分自身の本來の任務である研究への努力が缺けていないかどうかの反省を怠つてはならないのである。研究精神の作興が特に必要な所以は茲にあると思ふ。

新しい憲法が實施せられ、新しい天皇制が始められてから、まだ日も浅い故に、國民全體が充分にこの新制度に慣れないたな、或る者は急に無作法になつて、天皇陛下に對して自分の父に對する程度の尊敬すら拂わないようになつたり、又或る者は今迄の慣習から抜け切らず、事苟しくも天皇陛下に關するとなると、過度に神經質的に、慎重に、と考へて、却つて怯懦になつたりするようである。我々は國の元首としての天皇陛下に對する敬愛の念を充分に保持するとともに、この御製の御下賜を喜び、御心に懸けられている學術振興の趣旨に副うことを第一の念願として進みたい。これがまた國民諸君が我々に期待しているところでもあると思ふのである。